

朝日新聞研究

酒井信彦



■2■

さかい・のぶひこ 元東京大学教授。1943年、神奈川県生まれ。70年に勤務し、「大日本史料」(11編・10編)の編纂に従事する一方、アジアの民族問題などを中心に研究する。2006年3月、定年退職。現在、夕刊紙や月刊誌で記事やコラムを執筆する。著書に「虐日偽善に狂う朝日新聞」(日新報道)など。

6月18日の朝日新聞・文化欄に、「首相、あべこべ言葉ですか」という記事がある。安倍晋三首相が「積極的平和主義」といった言葉を「本来の意味とは逆に使っている」と批判したものである。

同記事によると、詩人のアーサー・ビナード氏は北海道での講演で、「積極的平和」と呼び、さら

い言葉は、ノルウェーの平和学者、ヨハン・ガルトウ

ング氏が世界に広めた考案で、戦争とい

う直接的な暴力がない状態を「消極的平和」と呼び、さら

に努力して貧困や差別などを取り除いた状態を定義したものが」と紹介したという。安倍

首相は同じ言葉で、武器輸出の条件を緩め、集団的自衛権も使えるようにしようとする

——とも記している。日本のいわゆる平和主義者たちが、あまりにも「平和、平和」と唱えるものだから、安倍首相の側も「平和主義

」という言葉を利用したのである。どう。ビナード氏も「大変お上手」と褒めているから、この戦略は大いに成功したわけである。

ところで、最近の朝日新聞に良く出てくる言葉に、「反知性主義」がある。安倍政権が推進する、特定秘密保護法や集団的自衛権を容認する動きを、批判的に表現する言葉として使われている。

首相、あべこべ言葉ですか

知性に反した、本当の意味での反知性主義であると私は考える。

また昨年、「ヘイ

イトスピーチ」という言葉が、流行語大賞になつた。朝日新聞はあまり

しかし、自分の考え方と違つて、人間は、知性に反している。つまり「愚か」だと極めつけているわけであり、これは「上から目線」の「ずいぶん」ところで、最近の朝日新聞に良く出てくる言葉に、「反

知性主義」がある。安倍政権は、岩波の御用文化人が、現代日本を代表する知性だとの見方があるが、それにはまったく贊同できない。空想的・盲目的な反戦平和主義こそ、

の大誤報で、日本にとんでもない冤罪（えんざい）をなすりつけたのだから、これも明らかな日本と日本民族に対する

批判する言葉は、自分自身に見事に当てはまるが、それに気が付いていないだけである。まさに、「ことわざに言う

「天を仰いで睡する」である。「あべこべ」というのなら、朝日新聞の言葉こそ、「あべこべ言葉」の最たるものである。

慰安婦大誤報」などヘイトスピーチか

2014年6月18日 1版 13面 30



積極的平和主義→集団的自衛権の前提に

「拡大的に適用できる」

知性に反した、本当の意味での反

知性であると私は考える。

また昨年、「ヘイ

イトスピーチ」と批判する言葉は、朝日新聞が他の批判する言葉は、自分自身に見事に当てはまるが、それに気が付いていないだけであ

る。まさに、「ことわざに言う

「天を仰いで睡する」である。

「あべこべ」というのなら、朝日新聞の言葉こそ、「あべこべ言葉」の最たるものである。